

そよ風

第7号

今治市立立花中学校

人権学習は自分自身と向き合う学習です！

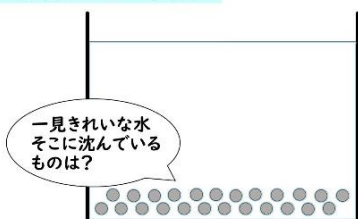
1 差別なんてしない！？

「自分は差別やいじめをしません。」自分で分かって差別やいじめをする人はほとんどいません。「差別やいじめがあるのに、気付いていない状態」または「人権問題に無関心であること」それこそが差別です。「自分も知らず知らずのうちに誰かを傷付けているかも・・・」、そんな自分自身の中にある弱さや差別心と向き合うことが、人権学習において大切なことなのです。

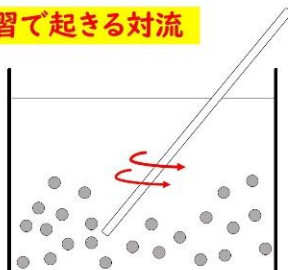
2 学ぶことで起きる対流！

一見きれいに見える水。それが自分の心の状態です。実は底に泥が沈んでいます。その泥が自分の中にある弱さや差別心です。普段は意識していなくても、人権学習によって水をかき混ぜれば、対流が起こります。泥(弱さや差別心)がどんどん浮かび上がってきます。そうすると、自分の中にある弱さや差別心が見えてくるはずですよ。自分自身の差別心と向き合い、それをひとつひとついねいに取り除いていきましょう。

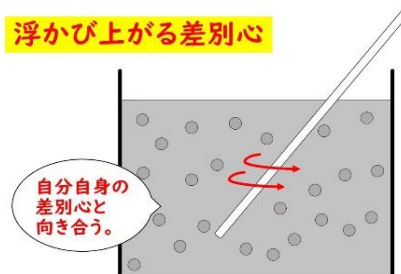
自分の心の状態



人権学習で起きる対流



浮かび上がる差別心



3 差別をなくする最終ランナーに！

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」水平社宣言から100年が経ちました。その歴史の中で、国が部落差別を残してきたことを認め、差別をなくすための法律が作られました。また、学校でも部落差別をなくすための教育(人権・同和教育)が始まり、全国統一応募用紙の制定や身元調査お断り運動などの成果を挙げながら現在に至っています。

部落差別の解消まで、あと少しです。逆に言うと、ネットなどの新たな形で、まだ差別が残っています。差別は、正しく学び、正しく伝えていくことでなくすことができます。今の中学生のみなさんの世代で、差別を完全になくしてほしいと思います。みなさん一人一人が差別をなくする最終ランナーになってほしいと思います。

人権学習をして

今年度11月に行った3年生での学年人権学習の感想の一部を紹介します。人権の歴史を学ぶ意義を通じて、差別の現実から深く学ぶことができました。

- 差別をなくする最終ランナーとして、正しい知識を身に付けたいです。
- 人権問題を他人事だと思わずに、「男らしさ」「女らしさ」「子どもだから」など固定概念をなくしていきたいです。一人一人が自分らしく過ごせる社会にするために、偏見を持たずに生きていきたいです。
- 正しく学び、理解したことをアウトプットして、人権について正しい知識を広げたいです。
- 自分も無意識に差別をしているかもしれないことに気付きました。部落差別をはじめとした、人種や障がいなどの差別や偏見をなくしていきたいです。
- 今生きていることは奇跡であり、周りに感謝すべきことを学びました。
- 誰でも平等に生きる権利があり、幸福を求める権利もあります。そのことを胸に刻み、たくさんの人と接していきたいです。そして、人の幸せを願える心優しい人になりたいです。
- 人権問題に意識を向け、一人一人の多様性を受け入れる身近にできる行動を当たり前にしていきたいです。
- 人権について勉強して終わりではなく、次の世代に伝えていかなければならない。
- 差別をなくするために、私たち一人一人ができることをもっと学びたいです。
- まず自分の行動や言動を改めたいです。
- お互いの意見や考えをしっかりと取り入れ、偏りのない考えを持つようにするべきです。お互いを理解し、尊重し合うことで、明るい未来が待っていると思います。
- グループでの話合いでは、自分では思いつかないような考えに触れることができ、考えを深めることができました。
- 差別される側にも、差別する側にもならない、社会をつくっていきたい。